

牛膝

和名ムラサキケマン

爲乃久豆知又爲乃伊比又云百億草

〔新撰字鏡〕牛膝

〔本草和名〕牛膝

陶景注云莖節似一名百倍一名其稜一名解倉一名牛莖一名誕一名餘容一名白木已上六名一名牛脣出小一名蘆薇出雜和名爲乃久都知一名都奈岐久佐

〔倭名類聚抄〕牛膝

陶隱居本草注云牛膝和名爲乃久豆知節似牛膝故以名之

〔箋注倭名類聚抄〕御覽引吳普本草云牛膝生河內或臨邛葉如夏藍莖本赤陶注有雌雄雄者莖

紫色而節大圖經春生苗莖高二三尺青紫色有節如鶴膝又如牛膝狀葉尖圓如匙兩々相對於節

上生花作穗秋結實甚細時珍曰牛膝處々有之謂之土牛膝不堪服食惟北土及川中人家栽蒔者

爲良秋間收子至春種之其苗方莖暴節葉皆對生頗似莧葉而長且尖脩秋月開花作穗結子狀如

鼠負虫有濇毛皆貼莖倒生

〔書言字考節用集〕牛膝

對節菜山莧菜牛莖並同見本草

牛膝對節菜

〔古今要覽稿〕草木のくつち

こまのひさ牛膝

のくつち延喜式新撰字鏡本草和名抄名義のくつち本草類編和漢三才圖會岡村尙謙曰古今醫統

に牛膝一名鼓槌草其莖有節如鼓槌のは全く猪のにして恐らくは犬山椒犬蓼の犬の如くの

は其狀相似たるものをさしていひしにやさらば鼓槌の名和漢暗合の通稱なり然るを本草啓

蒙に讚州にてはゑのこつち又ゑのころつちといふよしかればゑのこは全く狗字なれば即

狗槌の義也さはいへるのこは蓋し土人ののこを誤りていひ傳へしものなるか又はゑはゑはゑ

の音通なるもしるべからずのいひ新撰つなぎぐさ本草いなきぐさ醫心方以上名こまのひ

ざ本編駒はなを馬の如しおもふに皇朝にては古より牛膝を午膝とよみ來りしより出來し名

なるべしされば千金方藥注にもこまのひぎは牛字を午とあやまりたるなりとみへたりふし